展示報告：企画展「川端誠さん絵本原画と民具の世界」

真保　元（当館学芸員）

はじめに

本稿は企画展示「川端誠さん絵本原画と民具の世界」の展示報告である。展示概要を整理したうえで、展示のねらいについて示し、所感を述べる。

1.　展示概要

展示名称は「川端誠さん絵本原画と民具の世界」であり、開催期間は 2024 年 7 月 13 日（土）から 31 日（水）の 18 日間で、会場は郷土資料館の企画展示室および大磯町立図書館である（図１）。

図１　企画展示室全体

本展は、図書館をサポートする任意団体である大きなおうち、大磯町郷土資料館、大磯町立図書館の３者が共催で行った。図書館では絵本原画と川端誠氏個人が所有している道具や、制作風景などの展示が行われた。本稿では、郷土資料館での展示を主題として扱う。

今回は絵本作家の川端誠氏の絵本原画と、絵本に登場あるいは絵本の内容にリンクした民具を展示した[(1)]。展示趣旨の一部を参考までに引用する。

> 企画展「川端誠さんと民具の世界」を開催します。川端誠さんが 2002 年に出版した『お化けの海水浴』（BL 出版）では、様々なお化けが海へ行き、海水浴や素潜りをして海を楽しむ様子が描かれています。
>
> 一方、大磯町は海水浴発祥の地ともいわれており、明治 18 年に海水浴がはじまって以降、多くの人々が大磯海水浴場を訪れました。この海水浴場設置により、大磯は別荘の街として発展していくこととなります。
>
> また、海がそばにひかえる町であることから、海にまつわる妖怪の伝承もあり、特に海沿いは海での漁を生業とする漁師たちが暮らす漁師町でもあります。海水浴と漁業、どちらも大磯の海をとらえるうえでは欠かせない存在だといえます。
>
> 本展では、川端誠さんの『お化けの海水浴』の原画と、それにちなんだ大磯の海水浴の歴史や道具、海に関する妖怪の伝承や、漁労道具を展示することにより、大磯の海の世界をご紹介します。（後略）

『お化けの海水浴』の原画および原画のモチーフとなった川端誠氏所蔵の民具を展示したほか（図 2）、資料展示の構成は、3 つのテーマを設定した。参考までに、展示資料の一覧を提示する（表 1）。

図２　絵本原画と川端誠氏所蔵の民具の展示

１つ目が「大磯と海水浴」である（図 3）。絵本の中ではお化けが海水浴を行っている様子が描かれて

図３　大磯と海水浴の展示

図５　大磯と漁業の展示

いる。大磯は海水浴場発祥の地といわれており、大磯の海水浴の歴史的側面を紹介した展示を行った。

2 つ目が「大磯とお化け」である（図 4）。絵本の中にはお化けが数多く登場するが、大磯にも多くの妖怪の伝承が存在する。一つ目小僧など、絵本にも登場する妖怪の伝承を紹介した。あわせてカゴを展示し、年中行事の事八日や、左義長を紹介した。

図4　大磯とお化けの展示

3 つ目が「大磯と漁業」である（図 5）。絵本ではお化けが魚を獲る様子が描かれている。大磯は海沿いの街で、かつては漁業が盛んであった。当館でも漁労道具を多数所蔵しており、その中からツキンボ漁のモリや、曳き釣り漁の潜航板などを展示した。そのほか、マイワイや大漁旗なども展示を行った。

関連企画としては、7 月 27 日（土）13 時～15 時に川端誠氏を招聘し、トークイベントを行った。2 時間のうち、前半の 1 時間半程度で川端誠氏が絵本制作の裏側を紹介するトークショーを、後半の 30 分程度で筆者が展示解説を実施した[(2)]。

2.　展示のねらい

本企画展の展示時期は夏季であり、海水浴に行くなど海に触れる時期でもある。本企画展は「海水浴」「妖怪」「漁業」を通じて、複眼的に大磯の海をとらえるものであり、本企画展を通すことで人文学的側面から把握できるようつとめた。

当館の民俗の常設展示は「祭礼」と「信仰」が中心であり、衣食住や生業などの日常生活が展示されていないことが課題であった。本企画展は、生業の中でも漁業に焦点をあてることで、前述の課題の克服を試みた。

ちなみに、最後に民俗の展示が行われたのは 2018 年開催の「ちょっと昔の暮らしと道具」（会期：2018 年 2 月 3 日～3 月 31 日）であり、民俗を主テーマとした展示は約 5 年ぶりである。この間、民俗の学芸員が不在だったため、民俗の展示が行われていなかった。当館は収蔵庫 1 から収蔵庫 3、特別収蔵庫、東蔵および外部のプレハブ収蔵庫など、いくつかの収蔵庫があり、その中でも民俗資料が多くのスペースを占有している。しかし、企画展などの機会を設けないと、死蔵されてしまう懸念がある。民俗資料をテーマとした展示を行うことで、少しでも館に収蔵されている資料を公開できればとも考えていた。

表1　展示資料一覧

『お化けの海水浴』原画					
番号	資料名	所蔵 （敬称略）	資料番号	点数	備考
1	『お化けの海水浴』原画	川端誠	—	20	
資料展示					
Ⅰ　大磯と海水浴					
1	松本順の写真	当館	1990－0203	1	写真パネル
2	海水浴法概説	当館	2012－1204	1	明治 19(1886)年 写真パネル
3	大磯之海水浴	当館	1991－0332	1	明治 33(1900)年
4	大磯海水浴浜辺景禱龍館 繁栄之図	当館	2015－0701	1	明治 24(1891)年
5	海水浴場	当館	1988－1218	3	明治中期～後期
6	（大磯名勝） 照ヶ崎海水浴場	当館	1988－1218	2	昭和 6 年～8 年
7	海水着姿の女性たち	当館	2006－0601	1	明治中期～後期 写真パネル
8	じいやとお馴染み	当館	1988－1218	1	明治中期～後期 写真パネル
9	イタゴ	当館	2003－0807	1	
Ⅱ　大磯とお化け					
1	一つ目小僧 （一番息子）	—	—		文字パネル
2	一番息子	—	—		文字パネル
3	大磯の左義長	当館	—	1	2018 年撮影 写真パネル
4	カゴ	当館	2000－0434－0002－1	1	
5	セーマンドーマン	—	—		文字パネル
6	船幽霊	—	—		文字パネル
7	オオダコ（タコ足の八本目）	—	—		文字パネル
8	ウミボウズ（盆の 16 日に船 を出さないわけ）	—	—		文字パネル
Ⅲ　大磯と漁業					
1	タコをとらないわけ	—	—		文字パネル
2	たも網	当館	1989－0701－0013－1	1	

3	モリ	当館	1995－1005－0016－1	1	
4	ハイカラの道具	当館	1986－0203－0002	1	
5	曳き釣りの道具	当館	1992－0503－0006 1992－0503－0004	2	
6	イカヅノ	当館	2021－0102	2	
7	イナダ用のツノ	当館	1992－0503－0011	2	
8	タコツボ	当館	1990－0401－0001－2 1986－0703－0008－2	2	
9	ビク	当館	1995－1005－0004 1986－0703－0004－1	1	
10	エビ用のイケス	当館	1989－0701－0002－2	1	
11	チゲ	当館	2001－0501－0013－1	1	
12	ドロボウキ	当館	1986－0106－0001	2	
13	アカトリ	当館	1983－1002－0019 1985－1208－0004	2	
14	ウキ	当館	1984－1107－0002－1 1984－1107－0002－2 1986－0203－0003	3	
15	大磯港のブリの水揚	当館	mb10－4－4	1	昭和 27 年松原勇吉氏撮影 写真パネル
16	大磯港のブリの水揚	当館	mb10－4－3	1	昭和 27 年松原勇吉氏撮影 写真パネル
17	大磯港のブリの水揚	当館	mb14－9－4_1	1	写真パネル
18	マイワイ	当館	1986－0802 1998－0502	1	うち一点(1998－0502)は ワタイレ
19	大漁旗	当館	2024－0603－0001	1	
20	イキョ	当館	不明	1	
21	大磯の定置網	当館	不明	1	写真パネル
22	はえ縄漁の準備 (大磯漁港にて)	当館	mb14－9－15_1	1	松原勇吉氏撮影 写真パネル
モチーフになった民具					
1	ナベ	川端誠	―	1	
2	ショイコ	当館	2001－0404－0019	1	
3	唐傘	川端誠	―	1	
資料展示合計				46	

表2　企画展そのものにかかわる感想（抜粋）

内容	おもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	18	3	1	0	0
見やすさ	見やすい	やや見やすい	ふつう	やや見づらい	見づらい
	19	3	0	0	0
解説	わかりやすい	ややわかりやすい	ふつう	やや難しい	難しい
	14	8	1	0	0
全体	満足	やや満足	ふつう	やや物足りない	物足りない
	19	3	0	0	0

3.　所感

今回の展示は 18 日間と短期間であったが、1049 人の来館者があった。北水慶一によれば、当館は夏季に来館者が伸び悩む傾向にあるため、夏季に行われる展示は来館者が伸びにくい［北水 2009：31］。そのことを踏まえれば、十分な来館者数といえよう。

アンケート結果についても触れておく。今回は企画展自体とトークショーでアンケートを行った。企画展自体に関するアンケートは期間中に 24 枚の回答があった。アンケートの個別での回答数の表示は紙幅の都合上 2025 年刊行予定の『大磯町郷土資料館年報』37 号に譲るが、感想に関して言えば 24 枚の回答中、内容・見やすさ・解説・全体いずれの項目も五段階中で 14～19 個が最大評価であった（表 2）。解説のみ、わかりやすいが 14 となっているが、ややわかりやすいが 8 となっている。本展示はパネルの文字数があまり無かったことにも起因するだろうが、概ね高評価を得られたのではないだろうか。

アンケートには自由意見欄も設けている。12 件の意見が寄せられており、簡単に紹介すれば、「絵がキレイで色使いが美しく、すてきだと思いました。」（60 代、横浜市）といった絵本原画に関する意見や、「タコ漁具など、民具と伝承の関係が分かりやすくて良かったです。今でも 8 月 16 日に船は出さないのでしょうか。」（70 代以上、平塚市）といった民具と伝承の有機性を評価する意見がみられた。一方で、「もう少しボリュームを加えて期間を長くした展示でもよいのではと思ました。絵本と民具のコラボは親しみやすく分かりやすかったです。楽しい展示ありがとうございました。」（40 代、藤沢市）という意見もあり、後述する筆者の課題点を端的に表した意見も寄せられている。

表3　トークショーのアンケート結果（抜粋）

内容	
おもしろい	17
ややおもしろい	1
ふつう	0
ややつまらない	0
つまらない	0
無回答	1

トークショーに関するアンケート結果もみておきたい。トークショーにかかわるアンケートは 39 名の参加者中 19 枚の回答があった。企画展本体と同様、感想欄だけに触れれば（表 3）、内容がおもしろいに 17、解説が 16 となっている。

トークショーの自由意見も、「原画もステキでしたし、郷土資料館の道具もいろいろ見れてよかったです。海のことも生活のことも、大磯のことがよくわかりました。子どもにも見せたかった。」（50 代、神奈川県内）、「先生の講演会をたいへん楽しく聴かせていただきました。ああ来てよかったです。学芸員さんの解説もとても興味深く、講演会を連動してのこの企画は理解も深まるのですばらしいと思いました。」（50 代、平塚市）などの好意的な意見が数多く寄せられた。川端誠氏の軽快なトークによって絵本

図６　講演中の川端誠氏

制作の裏側を知ることができたため、高評価を得たといえよう（図 6）。

課題点としては、主に①順路、②展示内容の深度の 2 点がある。①の順路は、資料展示は企画展示室内を時計回りで回るよう案内しているが、絵本原画の並びが反時計回りのため、途中で順路が入れ替わってしまう。そのため、順路がわかりづらかったという声もあったが、これには事情がある。当館企画展示室には展示ケース A と展示ケース B の 2 つがある。いずれも奥行きがあまり無く、展示ケース A が 50.5cm、展示ケース B が 75.9cm のため、展示ケース A に漁具を展示することが困難であった。この事情を鑑みれば、展示構成上順路が時計回りになってしまうのはやむを得ない事情であった。

②の展示内容の深度は、筆者個人の力量に由来するものであり、筆者が個人的に感じていたことであった。漁業については、道具を散発的に展示するに過ぎず、パネルの内容もやや粗いものがあった。筆者が当館に着任して 3 か月前後で行った展示であることを踏まえても、今一度反省の余地がある。

拙稿でも触れたが［真保 2025］、展示を通して学ぶことは多い。例えば、本展示を通して収蔵されている漁具をある程度把握することができた。前述のように、当館では大磯を中心とする、相模湾の網漁や釣漁、突漁などの漁具が数多く収蔵されている。収蔵庫 1 および東蔵の一部は漁具が占めており、これらの把握をする意義は大きい。

展示期間終了後には、本展示をふまえた常設展示の展示替えを行った。例えば、廻廊部分および中庭

図７　新設した大磯と漁業のコーナー

図８　新設した大磯と漁業のコーナー

にはハコブネが展示されていたが、ハコブネに本展示で展示したチゲなどの漁具を展示し、漁業のコーナーを常設展示として新たに設けることとした（図 7、図 8）。常設展示室内も、「海に願う祭り・大地に託す祭り」の部分に大磯の左義長（小正月行事）とのかかわりあいでカゴを、「祈りのかたち」の部分でタコツボを展示した。

常設展示の船形の台座がある箇所は、2016 年のリニューアル以前は「民話のオブジェ」コーナーがあり、高麗寺の観音漂着伝説が紹介されていた。リニューアル後はコーナー自体が無くなり、金色のタコのオブジェが置いてあるのみであった。「なぜ金色のタコがあるのか」と来館者に聞かれたこともあり、前述の漂着伝説を回答したこともある。今回、タコツボと漂着伝説の話を展示してオブジェとあわせてとらえることで、オブジェやタコツボ単体では表現

できなかった、漂着伝説との有機的な結びつきを行うことができた（図 9）。

むすびに

本稿では、雑多ではあるが展示報告を行った。絵本と民具を掛け合わせる試みは、これまで来館しなかった層を取り込む、あるいは民具の視覚表現など(3)、有機的な連関を育む土壌に成り得る。今回の企画展の民具の展示パートは筆者の力不足により素描に留まった感があるが、民具と絵本の融合は改めて検討していくべきトピックである。

現在の大磯の漁業は、『大磯町史 8 別編民俗』[大磯町編 2003] から約 20 年が経過していることもあり、大きく変容していることが想定される。当館に収蔵されている漁具は、「ちょっと昔」に使われていたものが数多くみられる(4)。現在での大磯の漁業の状況を詳しく調査し、より一層の深度を担保した漁業の企画展を行うことを今後の展望としたい。

注

（1）筆者は見学することができなかったが、絵本と民具を展示としてかけあわせた試みは、兵庫県赤穂市の赤穂市立民俗資料館が 2017 年に「絵本の中の民具たち」展として行っている。

（2）なお、本展示は 1 章「海水浴と大磯」を長谷川明香（当館学芸員）が、2 章「大磯とお化け」および 3 章「大磯と漁業」を筆者が担当した。

（3）民具の展示によくある感想として、写真や動画が無いと民具を使っている様子がわかりづらいというものがある。絵本などは一種の視覚資料として用いることもできよう。

（4）例えば、船を洗うドロボウキはデッキブラシに置き換わっている。船内に溜まったアカ（海水）をくみ取るためのアカトリは、船体の素材が PRC（強化プラスチック）に変わったことで、そもそも使用しなくなった（いずれも 2024 年 7 月に南下町在住の漁師より聞き取り）。

図9　タコツボとタコのオブジェ

参考文献

大磯町編 2003『大磯町史 8 別編民俗』大磯町

北水慶一 2009「入館者数の博物館業務評価―指標としての有効性（大磯町郷土資料館の実所から）」『年報』平成 19 年度

真保元 2025「大磯町郷土資料館春季企画展「大磯のひな人形」を開催して―展示紹介にかえて―」『現在学研究』15

Report　－大磯町郷土資料館だより－　No. 45
令和 7(2025)年 7 月 14 日発行
編集・発行　大磯町郷土資料館
〒255-0005　神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1
TEL.0463(61)4700／FAX.0463(61)4660